

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本文化論		
科目基礎情報							
科目番号	17	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻	対象学年	専2				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	毎回自作プリントを配布する。						
担当教員	田貝 和子						
到達目標							
<input type="checkbox"/> 日本語を分析的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。 <input type="checkbox"/> 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。 <input type="checkbox"/> 論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。 <input type="checkbox"/> 社会で使用されることを適切に使い、社会的コミュニケーションとして実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	日本語を分析的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることが十分にできる。	日本語を分析的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができる。	日本語を分析的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てることができない。				
評価項目2	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができない。				
評価項目3	論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことが十分にできる。	論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができる。	論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考・発想力を含む主体的な表現意欲を培うことができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本語を実際に分析し、日本語を理解する。また、資料収集の作業を元に、自分の研究テーマに関する事項に対して、日本における歴史の変遷を探り、自分の研究テーマに対して、日本文化史の視点から発展可能な事項を見出す。						
授業の進め方・方法	前半は、日本語を形態素解析を用いて2種の文章を比較、分析する。 後半は、各自のテーマについて、日本における歴史の変遷を調査する。その後、発表及びレポートとしてまとめる。						
注意点	歴史を知ること、現代を知ることです。ことばが変化してきた様子について、思いを馳せてみてください。また、現代科学の参考となる事項を掘り起こし、日本の風土に適合した開発を考える第一歩になればと思います。本科目は、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は、ワード、エクセルを使用した日本語の分析、及び、本人の研究テーマに関わるレポートの調査です。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	授業概要	授業の概要を述べ、意義と目的について説明する。日本語史の全体像について理解する。			
		2週	日本語分析 1	日本語を分析する方法について理解する。			
		3週	日本語分析 2	日本語を分析する方法について理解し、調査資料について検討する。			
		4週	日本語分析 3	調査対象資料を形態素解析し、エクセルデータとする。			
		5週	日本語分析 4	形態素解析したデータを調査し易いように修正する。			
		6週	日本語分析 5	データから読み取れる内容を分析する。			
		7週	日本語分析発表	分析した日本語の文章について発表する。			
	8週	日本語史のまとめ (試験)	日本語史についての筆記試験。				
	2ndQ	9週	テーマ設定	自己の研究に関連するテーマを設定する。			
		10週	資料収集方法	辞書や索引などを使って、資料収集を行う。			
		11週	レポート作成 1	資料をもとにレポートを作成する。			
		12週	レポート発表準備	レポートの内容についての発表準備をする。			
		13週	レポート発表	レポートの内容について発表する。			
		14週	レポート作成 2	レポートの内容を修正する。			
		15週	総括	授業の総括を行う。			
16週							
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	10	10	0	0	60	100
基礎的能力	20	10	10	0	0	60	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0